

第 114 回 東葛しぜん観察会

我孫子の里山ウォッキング

長谷川依子（松戸市）

日 時：2015 年 6 月 14 (日) 10~12 時 天気：曇り

場 所：谷津ミュージアム（我孫子市 岡発戸・都部）

参加者：大人 27 名、子ども 3 名、会員 14 名

昭和 30 年代の農村環境の復活を目指す東我孫子の谷津ミュージアムで観察会を行った。雨の予報はうまく外れ、明るい曇りの観察日和に、大人・子どもの参加者 30 名と 14 名の指導員が 4 班に分かれて観察開始。

J R 線路側林地に沿ってスタートするという、通常と異なるルート設定としたため、満開のイタドリやクサフジ、フトイの観察から始まり、花の盛りの大きなアカメガシワや実をつけたムクノキ、クリの雄花・雌花等を手に取り間近で観察。暑さの際は日射しを遮り、多少の雨では濡れずに という配慮からのルートだったが、近くで観た樹木の樹形・遠景観察や谷津田の形状理解にも向く利点があった。

市民活動グループの方が何種もの古代米を栽培する無農薬の田んぼには、今では除草剤で姿を消したデンジソウやヘラオモダカも繁茂し、足元からは最近手足が取れたばかり？のニホンアカガエルが慌ててぴょんぴょん飛び出す。ここには 6 種類のカエルがいて…という説明の最中も次々飛び出すカエルに、「おっ！自然が豊かなんだねえ」という参加者の声が聞かれた。1 粒の糲からどれだけのお米がとれると思いますか？と問い合わせ、稻やお米について考えながら、かつてここにヘイケボタルが飛び交う田んぼがずっと広がっていたことに思いを馳せた。

曇りのためかムシの数は少なめだったが、オオシオカラトンボやシオカラトンボが飛び交い、交尾・産卵する様子も見られた。ヨシ原ではオオヨシキリが大きな鳴き声と共に黄色い口を開けて姿を現し、今では希少なカヤネズミの巣も観ることができた。また猛禽類の餌場としての保全区域に話が及んだ際は、鳥に詳しい参加者に解説をお願いした。「カエルを食性とするならノスリがいるのでしょうか」とのこと。

木陰の浅瀬では表面が黄金色に見えるヒカリモを観察。これは藻ではなく単細胞生物で、光学顕微鏡で見るとべん毛が見えるらしい。皆で中腰になったり、しゃがんだりしながら観察できたが、日によって異なり、どうして光って見えるのかはまだ解明されていないという。この日はきれいに見えて良かった。

バッタの仲間を横目にツバメシジミを確認し、オカトラノオが咲くポイントから先は、谷津田の地形を再確認して解散地点まで歩く。

広いエリアでトイレのない観察会だったが、もっと観察したかった。何度も来ているが草やムシに気を付けて観たことがなかった。谷津田を初めて知った。また参加します 等の参加者の感想が聞かれた。子ども班はザリガニ釣りでも盛り上がったようだ。下見同様、ホトトギスが鳴いてくれればなぁ～と思いつつも、観察会の一期一会を楽しんだ。皆さん、本当にありがとうございました！



デンジソウ・オモダカやニホンアカガエルのお話し